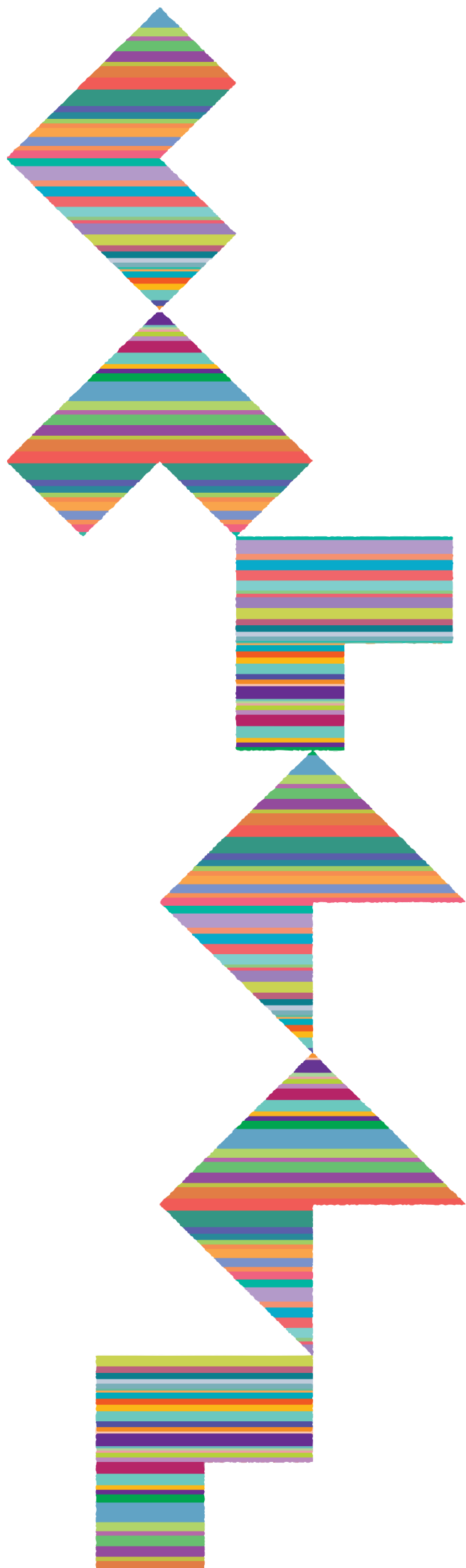


僕たち、  
私たちのチカラ  
この地から。

# Gotsu area career education guide

【江津地区キャリア教育ガイド】





# はじめに

江津地区連携推進連絡会会長 大賀美 周作

(島根県立江津工業高等学校長)



平成25年5月に島根県教育委員会より江津地区が「地域でつなぐキャリア教育モデル地域」として指定を受け、この3年間公立小学校・中学校・高等学校のキャリア教育の連携について取り組んで参りました。この事業の目的は「将来、地域への愛着と誇りを持って社会的・職業的に自立できるふるさとを愛し未来を切り開く子ども」の育成であり、モデル地域として他地域の取り組みの参考事例の取組や啓発活動です。本事業は、平成25年度島根県教育委員会主管事業として、そして平成26年度からの2年間は江津地区連携推進連絡会への委託事業として進められました。

初年度に「ありがとう江津～ふるさとをしあわせにする人づくり～」のスローガンを掲げ、この地域の教育財産である「ひと・もの・こと」を活かし、小学校から高等学校まで一貫したキャリア教育の確立をめざして実践してきました。それまでは、校種別に各学校でキャリア教育に取り組み、小中学校では「ふるさと教育」にも力を注いできました。この2つの教育をある意味統合し、小中高が一つの体系として各年齢期に沿った「ふるさと教育」「キャリア教育」を実践するために、「江津市ふるさと・キャリア教育」と称して取り組みました。

2年目からは、この活動を活発化させるために、「学ぶ」「伝えあう」「働く」「めざす」の4つのワーキングチームを作り、それらの調整・連絡役としてプロジェクトチームを作ったことが大きな成果に繋がりました。また、この間、ご多忙の中、多くの著名人の方にご講演を頂き、関係者を含め児童・生徒のみなさんも新たな知識を得て、さらに関心を高め、ふるさとのすばらしさや課題を再認識することができました。加えて、多くの地域の皆様、地元企業の皆様にご支援・ご協力を得て活動することができました。

平成27年12月5日には、この2年半の活動の一部を江津市総合市民センターにて「江津地区キャリア教育フォーラム」として発表もさせていただきました。児童・生徒のみなさんは、この活動を通して感じた思いを自分の言葉で力強く発表してくれました。

本書は、この江津地域における「ふるさと・キャリア教育」の取り組みについて、手引き書としてまとめたものです。他の地域の皆様のキャリア教育推進の一助となれば幸いに思います。

最後になりましたが、本事業に対しまして3年間ご助言をいただきました島根県教育委員会、江津市教育委員会、江津地区連携推進連絡会委員の皆様、そして、ご理解ご協力をいただきました地元企業関係者の皆様、地域・保護者の皆様に衷心よりお礼申し上げます。

# 1. 事業の主旨

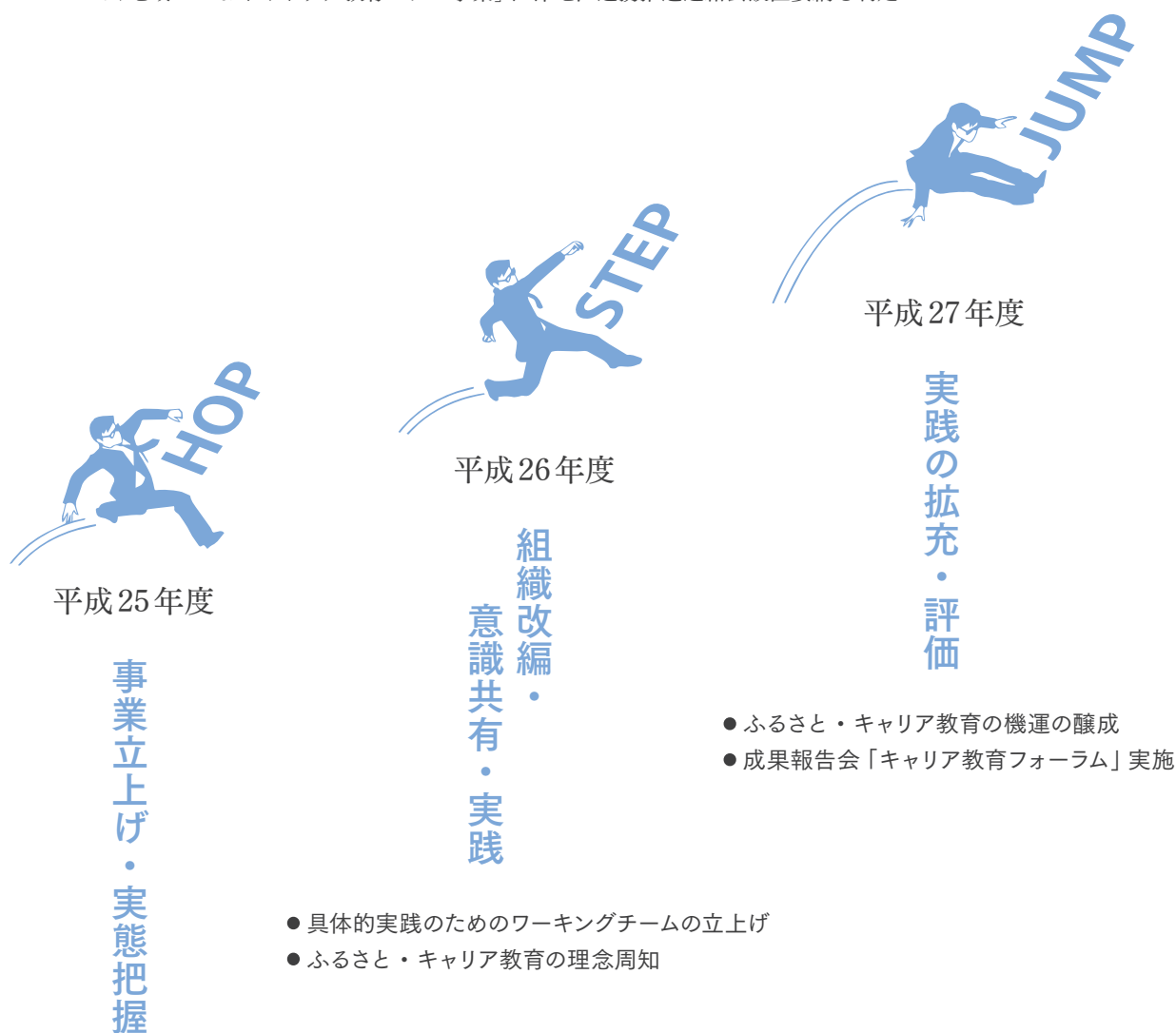
## 本事業の趣旨 ～江津地区における「ふるさと・キャリア教育」～

小・中・高校学校関係者及び地域住民、江津の企業関係者が「ふるさとをしあわせにする人づくり」というテーマで「ふるさと・キャリア教育」について協議・実践することによって、「ふるさと・キャリア教育モデル」を創出する。

[ 理 念 ] 江津の「ひと・もの・こと」を活かした学習活動をとおして、ふるさとへの愛着と誇りを育むとともに、今の学びと未来の生活のつながりを常に意識して、子どもたちの自立をめざす教育です。

[ 実 践 ] 今まで取り組んできたふるさと教育活動を「キャリア教育」の視点で見直して、異校種間の活動をつなぎ、関係者の協力を強化する取組を実践しました。

※「地域でつなぐキャリア教育モデル事業」江津地区連携推進連絡会設置要綱を制定



- 課題の整理・付けたい力の確認・活動提案
- キックオフ講演会、「キャリア教育」新春座談会

## 2. 事業実施のながれ

2月27日 報告書承認、次年度計画  
(新構成員、年間計画、日程等)を提案→承認

### 第4回 江津地区連携推進連絡会

#### 〈平成27年度〉

4月20日 設置要綱、組織体制づくり  
日程等の提案・承認

#### 第1回 準備会

4月30日 同上

### 第1回 江津地区連携推進連絡会

5月 各WTで目標策定、事業予算計画協議

〈各ワーキングチーム会合〉  
学ぶ・伝えあう・働く・めざす

6月11日 (同日開催) 各WT事業、予算提案・承認

#### 第2回 準備会 プロジェクトチーム会議

6月18日 各WT事業、予算提案・承認

### 第2回 江津地区連携推進連絡会

7月～ 各WTで事業実施・進捗状況の確認

〈各ワーキングチーム会合〉  
学ぶ・伝えあう・働く・めざす

10月21日 事業進捗状況確認・フォーラム準備

#### 第3回 準備会

10月28日 同上

### 第3回 江津地区連携推進連絡会

12月5日 本事業の成果報告会

### 江津地区キャリア教育フォーラム

1月14日 事業実施状況確認・手引き作成準備

#### プロジェクトチーム会議

3月17日 報告書確認、決算報告

#### 第4回 準備会

3月22日 同上

### 第4回 江津地区連携推進連絡会

平成27年度の例

### 「ようこそ、先輩！」講演会

第1・2回地区連携推進連絡会  
〈4月・6月実施〉

「学ぶ」ワーキングチーム会議  
〈5月実施〉  
～ 実施校決定 ～

提案・企画協力

講師への対応  
(依頼・趣旨説明等)

### 「ようこそ、先輩！」講演会

〈8月19日実施〉  
(江津中学校)

実施協力・評価・報告

講師への対応  
(旅費謝金・礼状等)

ワーキングチーム会議

第3・4地区連携推進連絡会  
〈10月・3月実施〉

# 3. 体制づくり・組織づくり

## 組織全体図 ～平成27年度～

### 江津地区連携推進連絡会

[メンバー] 会長：江津工業高等学校長  
副会長：江津市校長会長、市教委参事、社会教育課長  
委員：高校代表2名、中学校代表4名、小学校代表4名  
PTA代表4名、民間代表5名、地域代表2名  
県教委4名、市教委4名

[事務局] NPO法人てごねっと石見

### 地域連携推進連絡会 準備会

### 地域連携推進連絡会 プロジェクトチーム

[ねらい] 本事業のまとめに関わる企画・運営

[メンバー] 各WG部長、実務者、県教委、市教委及び事務局

## ワーキングチーム

### working team: 学ぶ

[ねらい] 学習に関わる活動を通して、学び続けようとする意欲を育む

[メンバー] 部長：山藤俊治(青陵中)  
構成員：山縣雄二(川波小)、安永聡(PTA)  
山本由起(民間)、河村匡敏(江津高)  
事務局：堀康弘(市教委)

### working team: 伝えあう

[ねらい] 地域の魅力を伝えあう活動を通して、地域・社会をより良くしようとする意欲を育む

[メンバー] 部長：河野啓之(桜江中)  
構成員：佐田尾志おり(跡市小)、佐々木孝久(民間)  
吾郷信博(江津工業)、伊藤彰記(江津工業)  
事務局：植田紘司(市教委)

### working team: 働く

[ねらい] 働くことについて体験的理解を深めながら、地域・社会に貢献しようとする意欲・態度を育む

[メンバー] 部長：大賀美周作(江津工業)  
構成員：濱岡繁人(江津中)、岡田和明(高角小)  
藤田紀子(PTA)、田中裕之(民間)  
盆子原健(民間)、大西佐和子(民間)  
事務局：河野裕光(市教委)

### working team: めざす

[ねらい] 本事業の成果と課題を明らかにして、今後の「江津市ふるさと・キャリア教育」の展望を示す

[メンバー] 部長：角英樹(江津高)  
構成員：太田真治(江東中)、嘉戸哲治(江津東小)  
森脇亘(PTA)、盆子原健(民間)  
門脇勤(江津高)  
事務局：橋井泰治(市教委)

### 【留意事項】

- ※準備会・連絡会の案内及び会議資料は、会長が決定する。委員への案内状作成・配付、及び資料印刷は連絡会事務局〈てごねっと石見〉(以下事務局)が担当する。
- ※予算・決算案は会長が提案し、連絡会で決定する。なお、会計責任者は会長、処理担当は事務局が行う。通帳は事務局、印鑑は副会長(市教委)が管理する。

- ※会議文書・デジタルファイル等の保存責任は会長が負うが、管理保存は事務局が行う。
- ※ワーキングチーム会合の日程・会場・参加依頼及び会議資料については、ワーキンググループ事務局が作成・配付・管理・保存する。

【江津地区】地域でつなぐキャリア教育モデル事業

地区連携推進連絡会 構成員一覧 ～平成27年度～

WT:ワーキングチーム PJT:プロジェクトチーム

所属等	役員等	WT	PJT	準備会	氏名(敬称略)	所属名・職名等	
高校代表	会長/WT部長	働く	○	○	大賀美 周作	島根県立江津工業高等学校 校長	
	WT部長	めざす	○	○	角 英樹	島根県立江津高等学校 校長	
中学校代表	副会長	働く		○	濱岡 繁人	江津市立江津中学校 校長	
		めざす		○	太田 真治	江津市立江東中学校 校長	
	WT部長	学ぶ	○	○	山藤 俊治	江津市立青陵中学校 校長	
	WT部長	伝えあう	○	○	河野 啓之	江津市立桜江中学校 校長	
小学校代表		めざす		○	嘉戸 哲治	江津市立江津東小学校 校長	
		伝えあう			佐田尾 志おり	江津市立跡市小学校 校長	
		学ぶ			山縣 雄二	江津市立川波小学校 校長	
		働く			岡田 和明	江津市立高角小学校 校長	
PTA代表					舟木 正	島根県立江津高等学校 PTA会長	
		働く		○	藤田 紀子	島根県立江津工業高等学校 PTA副会長	
		めざす			森脇 亘	江津市立渡津小学校 PTA会長(市P連会長)	
		学ぶ			安永 聡	江津市立青陵中学校 PTA会長(市P連副会長)	
民間代表		働く		○	田中 裕之	双葉工業株式会社桜江工場 製造部長(桜江工場責任者)	
		伝えあう			佐々木 孝久	株式会社D52 代表取締役(江津商工会議所青年部 直前会長)	
		めざす/働く			盆子原 健	cafe 桜co.. 代表(江津商工会議所青年部 副会長)	
		働く			大西 佐和子	あいすもなか&米粉のおやきの店 dodo_ichi 店主	
		学ぶ			山本 由起	ラボ教育センター ラボテューター	
地域代表				○	横田 学	島根県商工労働部雇用政策課 産業人材 育成コーディネーター (NPO法人てごねっと石見 理事長)	
					村川 立美	郷田公民館 館長	
江津市教育委員会	副会長				森岡 眞寿美	江津市教育委員会 参事(学校教育課長)	
	副会長				中西 一郎	江津市教育委員会 社会教育課 課長	
	WT事務局	働く	○	○	河野 裕光	江津市教育委員会 社会教育課 社会教育係 係長	
	WT事務局	伝えあう	○	○	植田 紘司	江津市教育委員会 社会教育課 社会教育主事	
	WT事務局	学ぶ	○	○	堀 康弘	江津市教育委員会 学校教育課 指導主事	
	WT事務局	めざす	○	○	橋井 泰治	江津市教育委員会 学校教育課 指導主事	
島根県教育委員会				○	○	渡邊 宏志	島根県教育庁教育指導課 キャリア教育推進スタッフ 調整監
				○	○	神谷 祥久	島根県教育庁教育指導課 キャリア教育推進スタッフ 企画幹
						濱崎 政寿	島根県教育庁浜田教育事務所 企画幹(学校教育)
						佐々木 伸	島根県教育庁浜田教育事務所 企画幹(社会教育)
高校担当者		伝えあう/働く	○	○	吾郷 信博	島根県立江津工業高等学校 教頭	
		伝えあう/働く	○	○	伊藤 彰記	島根県立江津工業高等学校 キャリア教育担当	
		学ぶ	○		河村 匡敏	島根県立江津高等学校 進路指導主事	
		めざす	○		門脇 勤	島根県立江津高等学校 キャリア教育担当	
	監事				坂根 広晃	江津工業高校元PTA会長	
	監事				山田 義則	江津高校PTA副会長	
	事務局		○	○	渡辺 諭	NPO法人てごねっと石見	
	事務局		○	○	竹内 希	NPO法人てごねっと石見	

## 4. 取組内容

### 「学ぶ」ワーキングチームの取組

#### ● 「学ぶ」ワーキングチームの使命

学習に関わる活動を通して、学び続けようとする意欲を育む。

#### 【取組のコンセプト】

「異年齢同士」+「現在と未来」=意欲高揚

- 小・中学生 × 高校・大学生 = 意欲UP ↑
- 学ぶ意欲 × 将来の生活 = 意欲UP ↑

#### ● 取組の概要

#### 【わくわくイングリッシュ】

##### ① ねらい

高校生が小・中学生と英語を通じて交流することを通して、互いに学ぶ意欲や地域の絆を感じる。

##### ② 内容

- (1) 毎年、江津高校生が市内小学校2校、中学校1校を訪問
- (2) 高校生が中心になって活動を展開
- (3) 授業後、感想を交流

##### ③ 小学生・中学生・高校生の感想

#### 【小学生】

- 笑顔で優しく声をかけてきてうれしかった。
- 説明が上手で、分かりやすかった。
- 高校生のよう英語が話せるようになりたい。
- 一緒に英語の歌が歌えてうれしかった。
- また「わくわく」に来てほしい！

#### 【中学生】

- 誰と話そうか迷っているとき、『Hello!』と目を見て言ってくれたのがうれしかった。
- 高校生だけでなく、小学生とも交流してみたい。
- 自己紹介や『Do you ~』だけでなく他の活動もやってみたかった。
- 2・3年生になっても『わくわく』をやりたい。
- 高校生がアドバイスしてくれたのががんばりたい。

#### 【高校生】

- 小学生と目線を合わせながらできてよかった。
- 母校の小学校だったので、懐かしかった。
- シールを渡す時に、もっと会話を入れればよかった。
- 小学生と一緒に活動する機会はないので、とても良い経験ができたと思う。
- 中学生が楽しそうに活動していたので、やってよかった。
- 英語が苦手な子にも楽しめる活動にした方がいいと感じた。
- 今後も機会があれば、やってみたい。



高角小学校での英語交流活動



江津中学校での英語交流活動



津宮小学校での英語交流活動



桜江中学校での英語交流活動



江津東小学校での英語交流活動



## 【ようこそ、先輩！講演会】

### ① ねらい

中学生が卒業生からの話を聴いて、自分を振り返り、学習や自立への意欲を高める。

### ② 内容

- (1) 卒業生による講演
- (2) 講演後、感想シートに記入



講演会の開会の様子

### ③ 中学生の感想

#### 【江津工業高校3年生の話を聴いて】

- 年齢が私たちと最も近かったのでわかりやすかった。
- 提出物の期限を守って、授業中ノートをきちんととることは高校でも大切だとわかった。
- 高校でも日々の授業が大切なんだと思った。
- 江津工業高校がどんな学校で、多くの資格が取得でき、専門的な授業が受けられることがわかってよかった。
- 自分の将来について明確に決めておられてすごいなあと思った。

#### 【日本製紙江津事業所勤務者の話を聴いて】

- 職場でも期限や時間を守ることは絶対なんです。
- 高校では試験やレポートをしっかりやらないと留年するということがわかった。
- 自分で働いて生活していて、すごいと思った。
- 初任給でお世話になった人たちに恩返しをして偉いなと思った。
- 中学時代の部活で厳しく言われたあいさつと返事が職場でも大切だとわかった。
- 自分の夢や目標から高校を選択すること。
- 高校を卒業してから、都会へ行かず地元で働いておられる姿がとてまかっこいいと思った。
- わからないことをそのままにしておく、わからないままだという言葉が印象に残った。

#### 【大学2年生の話を聴いて】

- プレゼン形式で写真も多くて、わかりやすかった。
- 大学や寮の様子がよくわかった。
- 私も保育士をめざしているので、話がとても参考になった。
- 私も大学には行こうと思っていたので、山本さんのように充実した日々を送るために、今を大切にしたい。
- 何事にも全力でチャレンジすること、僕も心がけたい。
- 高校時代のボランティアや大学でのアルバイトも子どもに関わることを一貫して経験されておられた。私も保育士になりたいので良い話を聴くことができた。

## 【小中高合同教職員

## ふるさと探索研修会】

### ① ねらい

“ふるさと江津”を感じられる体験的な研修活動を行うことを通して、青陵中校区内教職員の親睦を深める。

### ② 内容

- (1) 4つのフィールドワークを教職員が選択する。
- (2) 地域ボランティア等の協力を得て、地域を知り、感じる活動に取り組む。
- (3) 昼食会または夕食会で親睦を深める。



ふるさと歴史探訪の様子

## ● 成果と課題

### (1) 成果 (児童生徒の感想から)

小中高生が異年齢集団同士で交流することは、互いにとって過去や今を振り返る機会になるとともに、近い将来を意識して今、何をすべきかを考える貴重な機会となっている。

### (2) 課題

異校種間連携で得た成果を日常の教育活動で、どのようにいかしていくかについて、教職員任せになっており情報交換等を行う必要がある。

勤務する校区内の地域を知る体験活動が意義深いことは理解されているが、教職員にとって時間と場の設定が難しい。今後、市内全域での効果的な実践が求められる。

## 「伝えあう」ワーキングチームの取組

### ● 「伝えあう」ワーキングチームの使命

地域の魅力を伝えあう活動を通して、地域・社会をより良くしようとする意欲を育む。

#### 【取組のコンセプト】

地域の魅力 ～ものづくり～  
 — 瓦・伝統工芸・有力企業・発電 —  
 「つくり方」を伝える（江津工業高校生）  
 ×  
 「つくりたい」を伝える（小学生）

### ● 取組の概要

#### 【小学生のものづくり】

##### ① ねらい

小学生と高校生がものづくりをテーマにつながり、伝えあうことで生まれる将来へのわだち。

##### ② 内容

- (1) 江津工業高校の「ものづくり」実習を小学生が見学する。
- (2) 江津工業高校生が小学生の「ものづくり」を支援する。

##### ③ スケジュールと参加児童

	平成26年度		平成27年度	
	日付	人数(児童)	日付	人数(児童)
小学生が江津工業高校を見学	10月30日	74人	7月8日	76人
江津工業高校生が小学生にものづくりを教える	12月11日	74人	8月20日	32人※
取組の様子を発表(ごうつ秋まつり)	実施していない		11月15日	

※夏休み中に申込制で実施

##### ④ 小学生・高校生の感想

#### 【小学生】

- ロボットのプログラムを英字で入れていてかっこ良かった。
- 鉄を曲げるのはどうやってやるんだと思った。私もやってみたい。
- ケースを作っているお兄さんがいて上手だったから、私も作ってみたい。
- 自分の家を作ってみたいから、建築科に入りたい。
- 僕の次元ではとてもついていけない。高校生すごいなあと思いました。
- これを教えてもらって東京ドームはこんな構造なんだとわかりました。
- 高校生のお兄さんは、教え方がとっても上手でわかりやすかった。



機械科の見学



建築科の見学



工業高校総合電気科の見学

## 【高校生】

- 教えるということが大変だとわかり、色々な準備をして取り組む大切さがわかった。
- 子どもたちが自分たちの説明をきちんと聞いてくれてよかったし、楽しく活動できた。
- 母校だったので、校舎の様子や、行事も変わってなくてとても懐さを感じた。
- 授業で得た知識を活かす経験ができ、日々の授業内容が身についていたことに気づいた。

江津市「働き者」育成	
自分について	学校 学年 名前 性別
きて得たこと	なまえ 経緯 今後の活動(仕事)を始めた経緯
きて得たこと	江津工業高校
書いてほしいこと	キカイ科
	ケンテック科
	デンキ科
自分なりにまとめよう	キカイ科
	ケンテック科
	デンキ科
書いてほしいこと	



説明を聞いてまとめる様子



江津工業高校の教員に指導をうける様子

## ● 成果と課題

### (1) 成果

#### 【小学校の教員から見て】

- 近い未来のモデルと言える高校生への憧れを、子どもたちが感じれたと思う。
- 高校で学ぶ学習内容への関心が生まれた。
- 理論が実際の形になる経験を積めた。
- 工業高校で学びたいと思う児童も出てきた。
- 作品は、家の方だけでなく、地域の人にも披露していた。
- 「地域のため」「感謝の気持ちを伝える」という思いが強まり、活動の意欲が高まった。

#### 【工業高校の教員から見て】

- 高校生の伝える力を向上できた。
- 高校生のリーダーシップを発揮する場面が作れた。
- ものづくりの楽しさを達成感を共有できた。
- 学習してきたことへの自信がもてた。

### (2) 課題

- 小学生への指導方法と展開の研究・工夫。
- 開催時期を検討し、年間計画に入れ込んでの取組の方が実施しやすい。



江津工業高校生と一緒にものづくりをしている様子



完成した作品での記念写真

## 「働く」ワーキングチームの取組

### ●「働く」ワーキングチームの使命

働くことについて体験的理解を深めながら、地域・社会に貢献しようとする意欲・態度を育む。

### ●取組の概要

#### 【小中高一斉キャリア教育月間】

市内小・中・高校学校の職場体験を同時期に行い学校間のつながりを意識化していく。また、地域の市内企業へ「のぼり旗」を設置することにより、キャリア教育への関心を高め、地域全体でのつながりを意識化する。

#### 【中学生の感想】

- 働くということは何をするにしても楽だということはないと感じた。でもその苦勞を乗り越えるとその仕事の楽しさを見つけることができると思った。
- この体験を通して、看護師になりたいという気持ちをもっと強くなった。
- 自分も将来は社会に貢献している企業に就職したい。

#### 【働くことに関するワールドカフェ】

市内企業の役員や社員の方々を講師として招き、生徒は興味のある企業から実際の仕事や企業風土についての話を聞き、キャリア教育についての関心を高める。

#### 【ワールドカフェの感想】

- 今まで家の近くにあるのに、何をつくっているのかわらなかつた。こんなすごい会社があることを知り、誇りに思った。
- 働くということの現実味が持てて良かった。
- 地元の企業に就職して地元を活性化していきたいと思った。

#### 【地域と自分の未来をデザイン！

#### 中高生夏合宿】

地域の中学生及び高校生を対象とした、宿泊型の研修を行い、市内企業の現場視察やグループワーク等を通じて、市内企業の取組や課題等についての理解促進を図る。また、参加する生徒のチームワーク、プレゼンテーション能力、社会人基礎力の醸成を図る。



職場体験の様子



職場体験の様子



桜江中ワールドカフェ



江工・ポリテク島根ワールドカフェ

## 【 中高生夏合宿での生徒提案内容 】

- しちだ教育研究所のオリジナル教育法を江津市内の全保育所で受けることができないか。
- 石州瓦のオリジナルキャラクターやご当地アイドルを作ってPRしてはどうか。
- 地元の企業が元気になれば、若者の都会への流出は防げる。

## ● 成果と課題

### (1) 成果

地元の支援企業と中高生のつながりを深めることができた。就労への関心とともに、地元企業の素晴らしさ、ふるさとの良さについて知る機会となった。

ふるさと・キャリア教育の啓発活動として、のぼり旗の設置や保護者を対象とした教育宣伝活動を実施した。アンケート結果から、本教育の認知度もアップし、必要性も市内に広まってきている。

### (2) 課題

本事業に携わっている・知っている方々（児童・生徒、学校関係者、保護者、受入れ企業など）だけでなく、地域全体の取組として、江津市の宝である「ごうつ子ども」を地域で育てていく体制や機運を整えていく必要がある。

職場体験、インターンシップについては、受入れ側と学校側の思いに大きな開きがあり、この点についての調整を図る必要がある。

特に、職場体験については、受入れ企業は学校側がこの職場体験に何を求めているのか、十分に分からないこと、学校側はどこまでお願いしているのか分からないというところもある。また、日程的にも学校側は2～3日と限定した依頼だが、受入れ企業は、業種によっては、安全面も考慮して、体験と事業所見学で1日が限度と考えている企業もあれば、長期間体験を望んでいる企業もあり、お互いの思いを調整する必要がある。



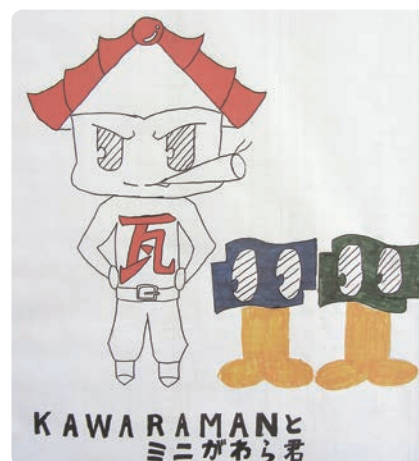
中高生夏合宿 グループワーク



中高生夏合宿 中間発表



中高生夏合宿 最終発表



中高生夏合宿 石州瓦オリジナルキャラクター

## 「めざす」ワーキングチームの取組

### ●「めざす」ワーキングチームの使命

本事業の成果と課題を明らかにして、今後の江津市ふるさと・キャリア教育の展望を示す。

### ●取組の概要

- ① 江津市ふるさと・キャリア教育の普及・啓発
- ② 意識調査等による事業効果の検証  
（「5. 事業全体としての成果と課題」に記載）
- ③ 今後めざすべき方向性の提案  
（「5. 事業全体としての成果と課題」に記載）

### ●平成25年度の取組

#### 【キックオフ講演会】

平成25年11月10日

- 対象：小中高生、一般
- 演題：これからの時代に必要なキャリアデザイン
- 講師：教育改革実践家/元杉並区和田中学校校長  
藤原 和博氏
- 概要  
高度成長期には情報処理力が求められていたが、現代は情報編集力が求められること、利害関係のないななめの関係（地域コミュニティ）で子どもは発達すること、身に付けた力を組み合わせ、自分自身の希少性をさらに高めていくこと等について講演いただいた。
- 市内の子どもたちによる学習発表会
  - ・小学校「ふるさと学習から得られたもの」
  - ・中学校「職場体験を通して学んだこと」
  - ・高校「地域・社会にどう貢献するか」



学習発表の様子

#### 【新春座談会】

平成26年1月17日

- 対象：一般
- 出演者：事業主代表、保護者代表、PTA代表、小・中・高校長
- テーマ：それぞれの立場から江津の子どもたちの将来を見据えて、地域と家庭と学校で何ができるか、何をすべきか
- 概要  
約50名の聴衆と、意見交換も行い、様々な視点でのキャリア教育の有用性や認識の違いについて考えることができた。



新春座談会の様子

## ●平成26年度の取組

### 【地域振興・人材育成のための講演会開催】

平成26年11月16日

- 対象：高校生、一般
- 演題：「キャリア教育と里山資本主義」
- 講師：日本総合研究所 調査部 研究主任 藻谷 浩介 氏
- 概要
  - ・江津市の現在の状況と将来の予測、都会地との比較を通じて、地域社会の維持と活性化の可能性について講演いただいた。
  - ・ラーニングカフェ：高校生と地域の方が、地域に関わるテーマで意見交流を行った。「江津市の未来について」「高齢化社会について」等



ラーニングカフェの様子

### 【高校生の感想】

- 地域の方と話すことで地域の方の考えていることも分かったし、自分の意見を話すことで意見を共有することができた。



### 【キャリアデザイン講演会】

平成26年12月6日

- 対象：中学生、高校生、一般
- 演題：「希望とキャリアデザイン」
- 講師：東京大学 社会科学研究所 教授 玄田 有史 氏

### ●概要

- ・いろいろな人の体験から学び、自分の道(軌)を考え、決めていく必要性を、具体例を挙げながら講演いただいた。
- ・講師を交えての中高生によるパネルディスカッション「江津市の将来と私のキャリアデザイン」

### 「地元を愛する 気持ちを忘れない」

江津中学2年  
舟木 香奈枝さん



#### 発表内容

江津を魅力的な町にすれば、より多くの医師が来てくれると思います。

修学旅行で大阪に行った時に、ふるさとのことを想う江津市出身の社長の話を聴いて、深く感動しました。

私も、将来、地元に戻りどんな形でもいいので江津の活性化に協力したいです。

#### かたしにできること

- 江津を愛する気持ちを忘れない
- 夢の実現のため努力し、地元で活かす方法を考える
- 将来、地元に戻り江津の活性化に協力する

#### 感じる未来のために

- 江津出身の医師を増やす
- 医師や看護師に優しい環境
- 介護福祉施設や従事する職員を増やす



パネルディスカッションの様子

## 【浜田教育事務所だより】

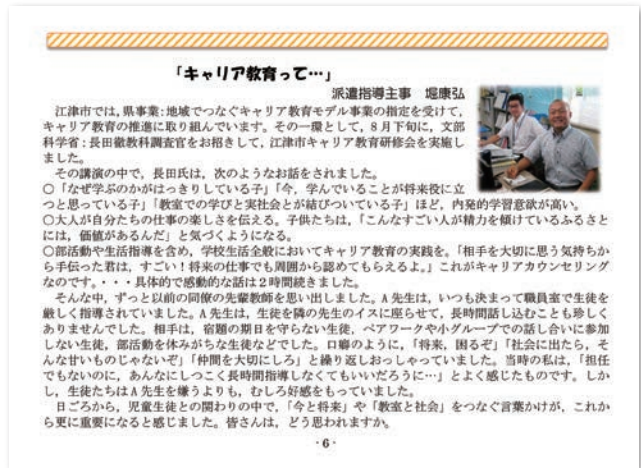
〈第47・55・57号〉への掲載

([http://www.pref.shimane.lg.jp/hamada\\_kyoiku/](http://www.pref.shimane.lg.jp/hamada_kyoiku/))

- 浜田教育事務所だよりに江津市の取組、活動の様子等を掲載した。



浜田教育事務所だより 第47号より



浜田教育事務所だより 第55号より

## ● 平成27年度の取組

### 【江津市キャリア教育講演会】

平成27年8月21日

- 対象：市内教職員
- 演題：「今、求められるキャリア教育」
- 講師：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター 総括研究官 長田 徹 氏
- 概要

指導者は子どもたちに「学び」と「社会」の結びつきを伝えていくとともに、社会のために「何ができるか」を考えさせていく必要があることを講演いただいた。

## 【「未来へ」冊子の作成】

本事業についての協力企業の一部を掲載し、市内高校生と中学3年生に配布した。業務内容と共に、求められる技術・資格等を紹介した。



冊子「未来へ」 ※一部抜粋



講演の様子



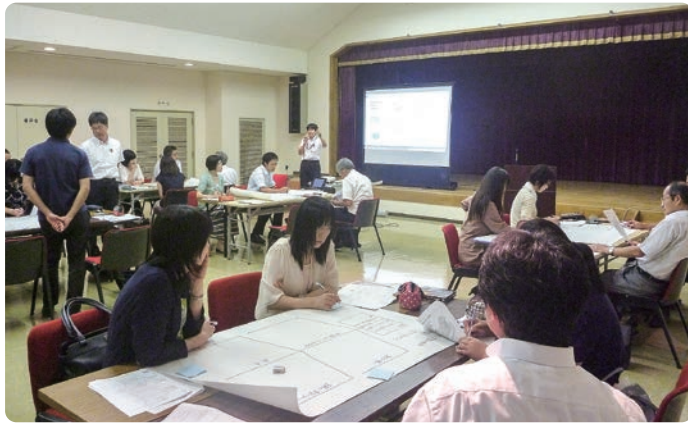
## 【「ふるさと・キャリア教育」に係るワークショップ】

平成27年8月21日

●対象：市内各小・中・高等学校のふるさと教育担当者  
及びキャリア教育担当者

### ●概要

各校で実践されているふるさと教育活動をキャリア教育の視点から、思考ツールを用いて、再検討し取組の充実を図った。



「ふるさと教育・キャリア教育」に係るワークショップの様子

### 【参加した教員の感想】

- 自分たちがやっている活動にどう価値付けをするかが大切だと分かった。
- 子どもたちの活動に対して、キャリア教育の視点に立った言葉がけをしていきたい。



思考ツールを用いての教育活動の見直し

## 【PTA総会での周知・啓発活動】

各小中学校(12校)・県立高等学校(2校)の年度初めのPTA総会において、江津市ふるさと・キャリア教育について、のぼりの紹介やチラシの配付を行い普及啓発に努めた。



PTA総会での周知・啓発活動

## 【江津市報「かわらばん」への掲載】

(<http://www.city.gotsu.lg.jp/>)

江津市報「かわらばん」において、各ワーキングチームでの活動の意図、様子等を紹介した。のぼりの設置等についても、市民に紹介した。



江津市報「かわらばん」9月号



江津市報「かわらばん」10月号

# 5. 事業全体としての成果と課題

## ～意識調査の結果から～

### 意識調査等による事業効果の検証

#### ● 事業効果の検証方法

◎平成 25 ～ 27 年度／全国学力・学習状況調査、質問紙調査結果の活用

◎「江津市ふるさと・キャリア教育意識調査(8月下旬～11月)」

… 全国学力・学習状況調査質問紙項目の利用

● 児童生徒：564人

→ 市内小学6年生(199人)・市内中学3年生(203人)・県立高校2年生(162人)

● 保護者：472人〈回収率 83%〉意識調査実施対象児童生徒の保護者

→ (小学校168人・中学校172人・県立高校132人)

● 教職員：235人

→ (小学校105人・中学校61人・県立高校69人)

● 事業主：40社〈回収率 60%〉

※小6・中3を調査対象とした理由：全国学力・学習状況調査で図った4月の意識との変容を図ることができるため。

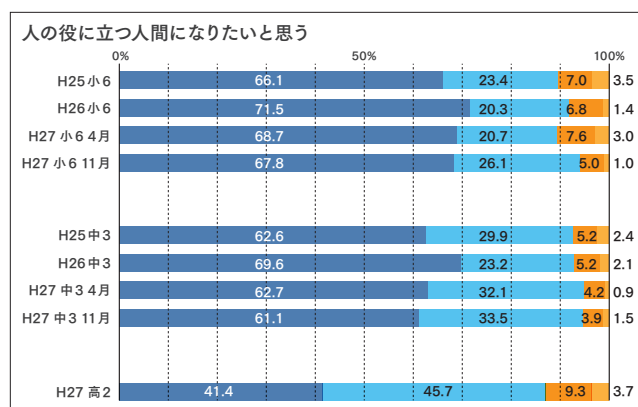
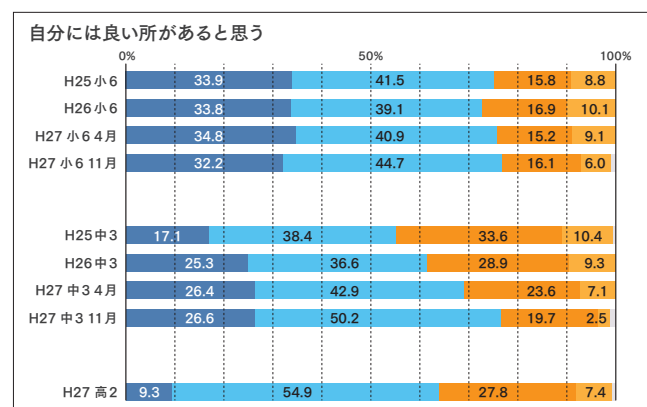
※高校2年生を調査対象とした理由：事業を開始したH25年度当時中3であり、全国学力・学習状況調査結果を用いて3年間の意識の変容を図ることができるため。

◎江津高校・江津工業高校 進路・学習意識調査の実施

#### ● 事業効果の検証

##### 【 児童生徒の意識とその変容 】

事業効果1：社会の一員として自己実現をめざす子どもの育成を図ることができたか。

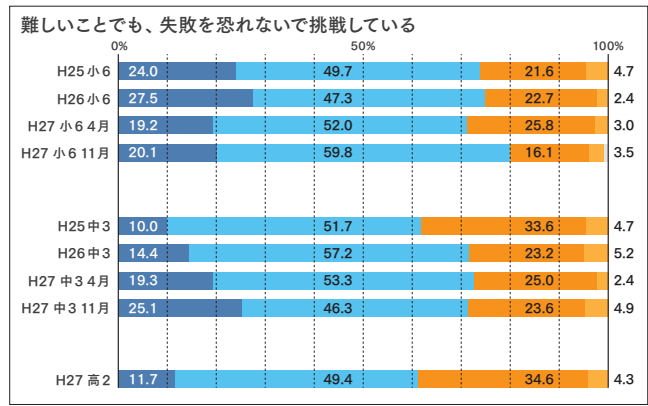
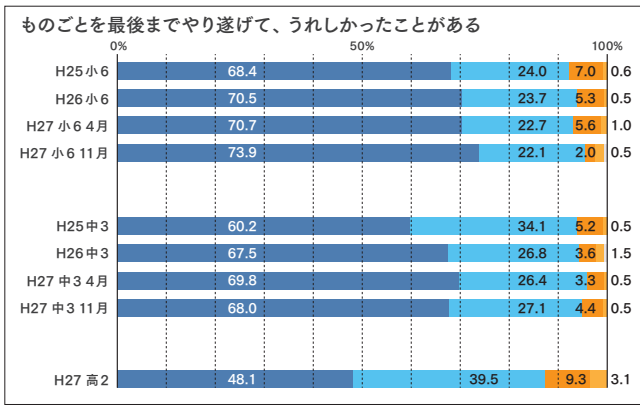


■ 当てはまる ■ どちらかといえば当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない ■ 無回答

○自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合について、中学校では年々高くなっている。

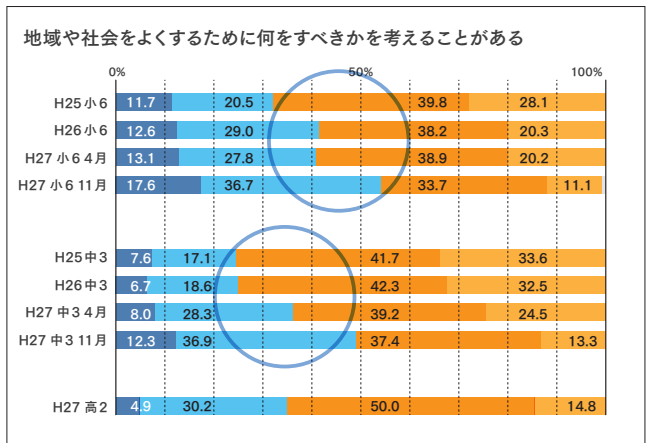
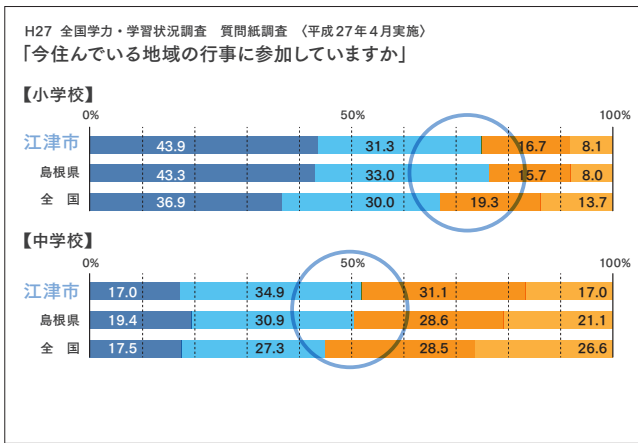
○人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合は高まっている。

事業効果2：夢に向かってやり抜く力をもった子どもの育成を図ることができたか。



- ものごとを最後までやり遂げ達成感を感じている児童生徒の割合は高い。
- 難しいことに挑戦したいと思う児童生徒の割合は6～7割程度であるものの、増加傾向にある。

事業効果3：地域への関心をもち関わろうとする子どもの育成を図ることができたか。

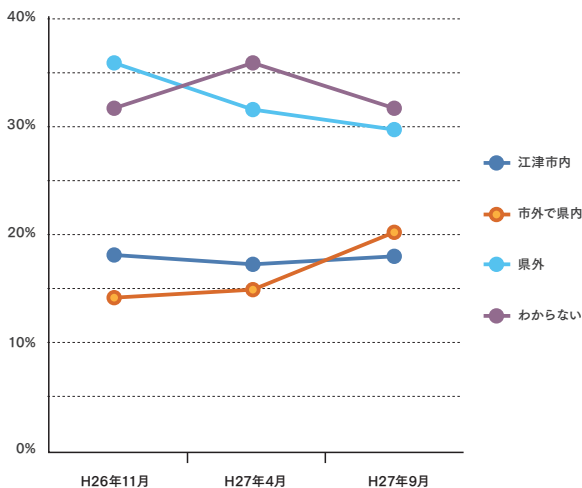


■ 当てはまる ■ どちらかといえば当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない

- 今住んでいる地域の行事に参加している割合は、全国平均と比べて高い。
- 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある児童生徒の割合は増えている。

【高校卒業後の意識】

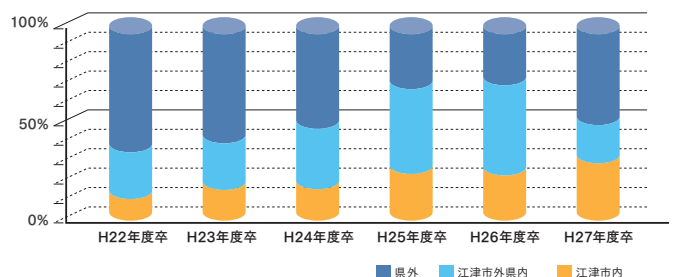
平成25～27年度江津高校スタディーサポート  
「あなたは、将来どこで就職し、住みたいと思いますか」



江津市内県立高校 地域別就職割合

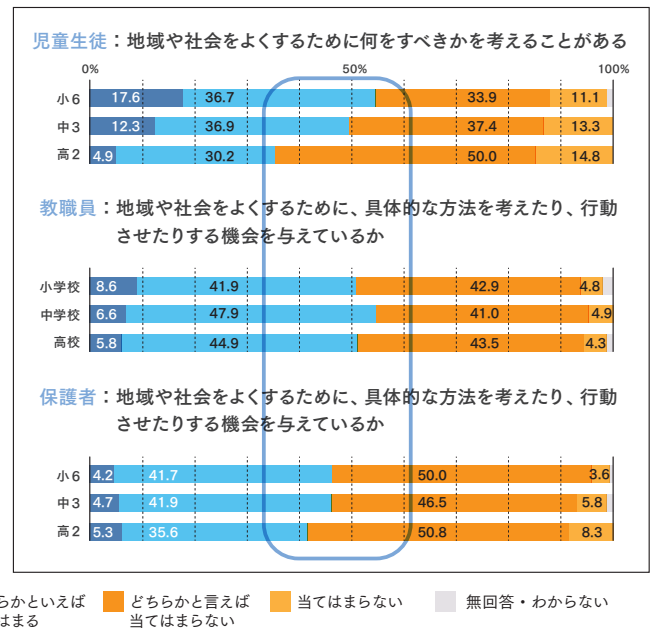
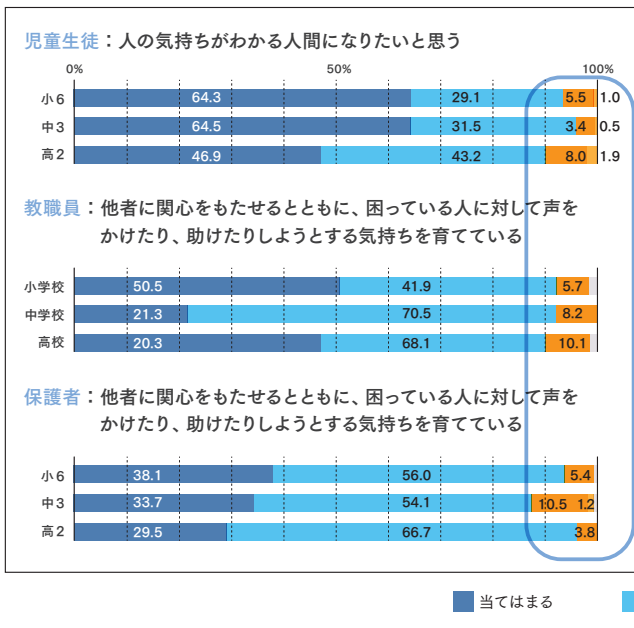
就職地域	H22年度卒	H23年度卒	H24年度卒	H25年度卒	H26年度卒	H27年度卒
江津市内	10	9	13	10	20	23
江津市外県内	16	8	17	15	29	16
県外	41	36	45	16	30	36
合計	67	53	75	41	79	75

就職地域	H22年度卒	H23年度卒	H24年度卒	H25年度卒	H26年度卒	H27年度卒
江津市内	15%	17%	17%	24%	25%	31%
江津市外県内	24%	15%	23%	37%	37%	21%
県外	61%	68%	60%	39%	38%	48%



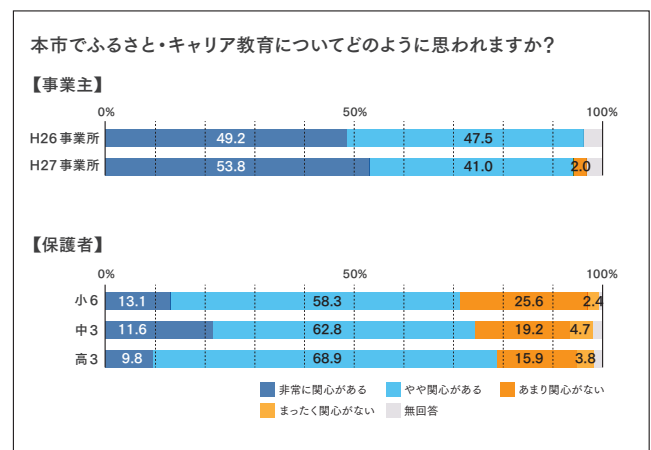
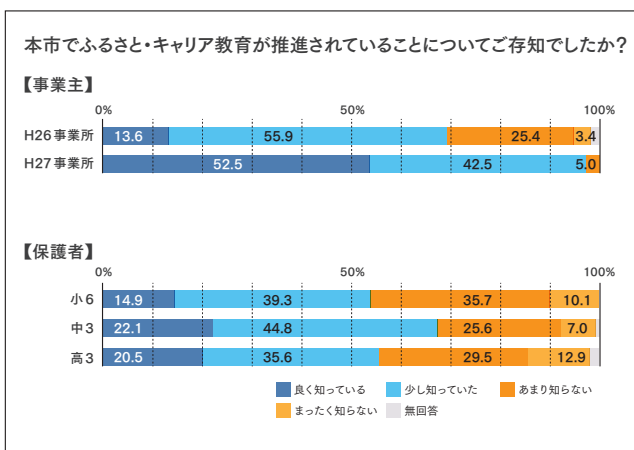
相対的には県外希望が多いものの、その率は下がり、江津市内または県内をを考える生徒が増えている。

## 【 児童生徒、保護者、教員の意識の関連 】



- 児童生徒対象「人の気持ちがわかる人間になりたいと思う」について、肯定的な回答が8割を超えている。また、教職員・保護者対象「他者に関心をもたせるとともに、困っている人に対して声をかけたり、助けたりしようとする気持ちを育てているか」について、同様に肯定的な回答が多く見られた。周りの人をいたわり、他者を大切にしてほしいと願う大人の思いが、子どもたちに好影響を与えていると考えられる。
- 一方で、児童生徒対象「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」という質問への肯定的な回答は、半数程度になっている。また、教職員・保護者対象「地域や社会をよくするために、具体的な方法を考えたり、行動させたりする機会を与えているか」という意識についても肯定的な回答は半数程度であった。
- 子どもたちの意識と教職員・保護者・地域の意識に密接なつながりが見受けられた。

## 【 江津市ふるさと・キャリア教育に関する大人の意識 】



### 〈 事業主の回答から 〉

- ・のぼりを掲げることで、地域とつながっているのだという誇りのようなものを感じることができた。
- ・地元採用をする上で、少子化や学力低下の改善としてキャリア教育は大きな効果があると考える。

- ・キャリア教育はふるさと教育とどのように関連しているのかどうか、よくわからない。内容の良くわかるリーフレットでもあればと思う。
- ・のぼりを掲示することで保護者や地域の方に多少のイメージアップはあったかとは思いますが、

「キャリア教育」の事業内容を理解されているか  
といえば疑問がある。もっと、この事業のアピール  
が必要である。

- ・学校側と受け入れ側との関係があり、大変難しい  
とは思いますが、体験的学習は少なくとも一週間を単位  
とした期間が理想である。ボランティア事業なども  
補助的事業として有効なのは、と思う。

○H26年度と比較し、事業主の関心は高まっ  
ている。職場体験等を受け入れることについては  
好意的な事業主が増えている。ただ、協力したい  
とは思いますが、どのような教育効果を学校が期待  
しているのか不明確である、という不満も見ら  
れた。また、地域への啓発が十分ではない、という  
声もあった。

#### 〈保護者の回答から〉

- ・江津高校生との英語の交流学習が楽しかったよう  
で家でもその話をしてくれた。高校生に対して尊敬  
や憧れの気持ちをもてたようだ。
- ・江津市には、素晴らしい企業が多くあり、子どもの  
視野を拡げるためにも企業の見学や、体験の機会を  
できるだけ与えてほしい。子どもが学校で学んだ  
経験をしっかりいかして、地域の一員として働ける  
ような人材になってくれるよう、キャリア教育に期待  
している。
- ・いろいろな取組が行われているようで、一つ一つは  
良い取組だと思うが、それが「ふるさと・キャリア  
教育」につながっていない気がする。何をもって  
ふるさと・キャリア教育なのか、伝わってこない。  
バラバラな気がする。もっと大きな柱を立てて、  
しっかり伝わるようにしてそれぞれの取組があると  
よいと思った。
- ・単発的な取組ではなく、地道に継続していかなけ  
れば何も効果は出てこないと思う。今後も行政は  
もちろん地域と学校、そして地元の企業が連携  
して、強力に推進してほしい。

○保護者の関心にも高まりが見られるものの、まだ  
十分な周知がされたとは言えない。今後、さらに  
継続的な取組を期待する声も多かった。

#### 〈教職員の回答から〉

- ・小中高の一貫した（少しでも連携された）指導  
計画等が見直しをもつ上でも必要だと思う。
  - ・江津市として、子どもたちにどうい大人に  
なってほしいか、小～高までのキャリア教育に  
一貫性を持たせる意味でもまとめてほしい。
  - ・イベントをするのが必ずしもキャリア教育ではなく、  
それぞれの内容を関連付け、どうつないでいくのか、  
効果を確認していくのが大切だと思う。
- 教職員からは、本事業の取組に必要性を感じて  
いることがうかがえた。活動と教育効果との  
つながりや発達の段階に合わせた系統性のある  
視点の提示を望む声があった。

## ● 成果と課題

### (1) 成果

- ・ふるさとにかかわる教育活動を充実したこと  
により、子どもたちの地域への関心が高まっている。
- ・自尊心の高まりとともに、他者を大切にしたい、  
人や社会に役に立ちたいと願う子どもたちが、  
ふるさとで育っている。
- ・子どもたちにとって年度を追うごとに江津市内に  
将来戻ってきたいという意識も高まっている。
- ・大人のキャリア教育への関心が高まるとともに、  
教育効果に大いに期待している姿も見られた。

### (2) 課題

- ・「江津市ふるさと・キャリア教育」の周知活動は  
進んでいるが、更にめざしていることやその成果を  
啓発する活動を充実させていく必要がある。
- ・子どもたちの意識は、教職員・保護者・地域の  
意識と密接につながっている。ふるさとを題材・  
教材とした教育活動について、キャリア教育の  
視点を明確化していく必要がある。
- ・地域、保護者、教職員との連携に関して、一層の  
充実が求められている。
- ・島根県事業として、3年間の取組を実施、検証  
してきたが、それをいかして江津市として、  
今後どのように推進していくのか計画を立て、  
実践していくべきである。

## ● フロー図作成の趣旨

- 各校で行われているふるさとの「ひと・もの・こと」を活かした教育活動について、視点を明確にすることで、子どもたちへの教育効果を高める。
- 発達段階による身に付けさせたい力を整理する。
- 教職員、地域の方が活用できるように、キーワードで表記する。

## ● 江津市ふるさと・キャリア教育の理念

江津の「ひと・もの・こと」を活かした学習活動をとおして、ふるさとへの愛着と誇りを育むとともに、今の学びと未来の生活のつながりを常に意識して、子どもたちの自立をめざす教育。

### 気付く

人やふるさととの豊かなかかわりの中で、自分の存在、役割について考える

### 働く

働くことについての興味関心を高めるとともに、意義や現実社会について学ぶ

### 描く

努力する年上の存在から将来の自分の姿をイメージするとともに、自分の適性を考えた将来設計を組み立てる

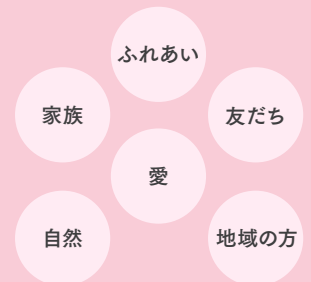
### 拓く

身近な目標や将来設計の達成に向けて、実践したり努力したりする

## 就学前

周囲への興味の広がり

家族、友だち、地域の大人とのかかわり、体験の積み重ねを通して、物事への興味関心をもつ。



地域交流

様々な活動を通して主体的に働くことの喜びを感じる。

楽しさ 喜び 模倣

敬老会

自分にとって困難な事柄を解決してくれる身近な存在にあこがれをもつ。

夢

優しいお兄さん お姉さん 大人

児童生徒の訪問による交流体験  
ALTとの交流体験

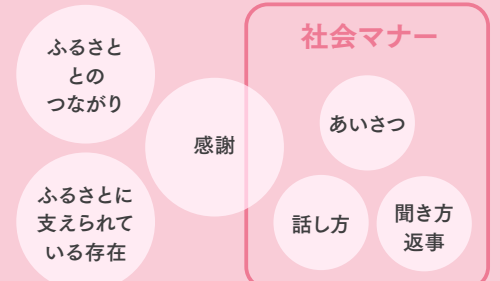
自分の表現したいことを追求したり、工夫したりする。

夢中 発見 挑戦

## 小学校

社会参画への基盤づくり

自分や周りの人、ふるさとの大切さに気付くとともに、ふるさとに支えられている存在であることを知る。



職場見学／赤ちゃん登校日／通学合宿

働いている人の想いや願いについて意欲を持って探ろうとする。

興味関心 想い 願い 苦勞

職場見学／ものづくり見学

得意なことや好きなことを生かして、将来なりたい自分の姿をイメージできる。

活躍する先輩 頼れる大人 将来やりたい仕事

わくわくイングリッシュの体験  
小学生ものづくり体験

自分にできることを見つけて進んで実践しようとして、目標をもって努力しようとする。

学習習慣 判断 情報活用 目標 リーダースhip

通学合宿



子どもたちに身に付けさせたい  
意識・能力等



小・中・高・地域との連携した取組例

## 中学校

暫定的な進路選択

自分や他者の個性を尊重し人間関係を円滑に進めるとともに、社会の中での自分の存在について考える。

ふるさとの魅力

自己の存在・可能性

地域課題との接触

相手意識

中高生夏合宿／職場体験

## 高等学校

社会参画への移行準備

積極的に自らの役割を果たし、多様な価値観の理解のもと、望ましい人間関係や社会を構築する。

地域の発展

理想と現実のギャップ

地域のニーズ

折り合い

わくわくイングリッシュの立案及び実践  
小学生ものづくり体験の立案及び実践  
「ようこそ、先輩！」講演会発表

自らの価値観や判断のもと、勤労観、職業観を確立する。

将来進みたい仕事に関する体験

ふるさと活性化

地域貢献への具体的実践

雇用

実生活とのつながり

インターンシップ

地域企業を招いてのワールドカフェ

社会や大人を客観的にとらえながら、働く意義を理解する。

勤労の意義

権利・義務

地域への貢献意識

社会の仕組み

職場体験／地域企業を招いてのワールドカフェ

自分にふさわしい職業や仕事への関心を高め、めざすべき将来を具体的にイメージできる。

卒業後の自分

大人になった自分

将来設計

わくわくイングリッシュの体験  
「ようこそ、先輩！」講演会

様々な情報を収集し、それに基づいて自分の将来について暫定的に決定する。

具体的な条件や課題の理解

多面的・多角的な情報収集

将来設計の見直し

インターンシップ計画

自分の能力・適性を的確に判断し、将来設計に基づいて、高校卒業後の進路について決定するとともに、新たなステップへの向上心をもつ。

自己実現

試行

実行力

能力適性

中高生夏合宿

中高生夏合宿

## 大学・専門学校 社会人

- ふるさとへの愛着と誇りの醸成
- 地域に貢献しようとする意欲の喚起

### 【人間関係形成・社会形成能力】

- 他者を理解する力
- 他者に働きかける力
- コミュニケーション・スキル
- チームワーク
- リーダーシップ

### 【自己理解・自己管理能力】

- 自己の役割の理解
- 前向きに考える力
- 自己の動機付け
- 忍耐力
- ストレスマネジメント
- 主体的行動

### 【課題対応能力】

- 情報の理解・選択・処理
- 本質の理解
- 原因の追究
- 課題発見
- 計画立案
- 実行力
- 評価・改善

### 【キャリアプランニング能力】

- 学ぶこと・働くことの意義や役割の理解
- 多様性の理解
- 将来設計
- 選択
- 行動と改善
- 創造力

参考文献

- 「小学校キャリア教育の手引き(改訂版)」文部科学省教育出版 2011年5月
- 「中学校キャリア教育の手引き」文部科学省教育出版 2011年5月
- 「高等学校キャリア教育の手引き」文部科学省教育出版 2012年2月

## 6. これからの展望

### ● 周知・啓発活動の継続・充実

教職員をはじめとして、保護者、事業主、地域住民等の大人（及び小中高校生）に少しずつ「ふるさと教育・キャリア教育」についての理解が進んできた。今後も、この周知・啓発活動は、事業推進者が継続していかななくてはならない。

そこで、これまで連絡会が主催者となって行ってきた、講演会、座談会、研修会、ワークショップ等の周知・啓発活動の機会提供に加えて、小・中・高等学校側から主体的に情報発信する必要がある。特に、学校からの通信や便りの中に、この「ふるさと・キャリア教育」の理念や意義を説明したり、地域に向けて活動への協力要請をしたり、活動の様子を報告したりすることで、保護者や住民、地域の事業主等の受け止めは一層真剣になることが期待できる。

### ● 教職員の意識改革

キャリア教育は、地域・社会や産業界との連携・協働により進めていくことは重要であるが、学校においてふるさと・キャリア教育を推進するには、子どもたちに毎日接している教職員こそがその主体となる。しかし、教職員へのアンケート調査の記述回答の中には、「キャリア教育の重要性が全ての教職員に理解されていない」「負担感が大きく、外部人材との協働の必要性を理解していない教職員がいる」「ふるさと教育とキャリア教育の関係性が見えない」などの指摘も散見される。

そこで必要なことは、「ふるさと・キャリア教育」に関する教職員の意識改革及び実践である。現在行っている様々な教育活動を見直すことから始めるべきであり、そのために必要なことは次のとおりである。

#### ①共有する視点について

地域の講師を招いての体験活動や講演会は、地域の良さや課題を知る良い機会である。そこで、指導者側（教員と地域講師の両者）が視点を共有して、それを納得して取り組むことが求められる。共有すべき視点とは、子どもたちに気づき、考えさせることを通して付けたい力であり、その力が将来どんな場面でのどのように役立つのかという視点である。また、児童生徒の発達段階を考慮して、地域（の伝統行事等）を支える人の思いや願いに触れ、地域のために自分に何ができるかを考えさせる機会を提供することである。地域の価値ある良さだけではなく改善すべき課題を意識するとともに、ESD（持続可能な開発のための教育）も視野に入れて実践するには自分が何をどうすべきかを考えさせることである。教職員と地域講師が同様の思いや願いをもって子どもたちに語りかけるためには、事前の十分な打合せ等が必要となる。

#### ②体験活動等について

体験活動等を一過性のイベントとするのではなく、児童生徒への事前・事後指導の一層の充実が求められる。例えば、事前指導として社会人講話や地域の職業人へのインタビュー等の実施や、訪問する企業やその業界について調べることを通じて、働くことの意義や職場見学・体験、インターンシップへの目的を確認させる。事後指導においては、受入れ先に礼状を書かせるだけでなく、体験活動前後の変化に自ら気付かせることや今後の進路にさらに必要なことを考えさせることも有効である。日常の学校生活全般への好影響を促す指導支援も忘れてはならない視点である。

#### ③日ごろの学習について

学校生活において、学習に向かう時間の比率はとて高い。その学習の場で、時間を守る、服装を



整える、名前を呼ばれたら返事をするなど、実社会で必要とされる態度を身に付けるという視点も重要である。また、これらは学校だから、授業だから守らなければならないのではなく、社会に出た時こそ必要な力でありマナーであることを伝えなければならない。また、授業における学び方から培われる能力を、社会で必要とされる能力と絡めて伝えるという視点ももつべきである。例えば、人前で自分の気持ちを表現することを苦手とする児童生徒の実態があれば、ペア学習や小グループでの発表機会を意識的に取り入れるとともに、発表内容の原稿を作成する学習過程を丁寧に設定するなどして、その力を育て、その力が社会でどのように活かされていくのかを子どもに考えさせる。これは全ての教科で意識することが可能な視点と言える。

これらの視点は、常に毎回、毎時間、シャワーのようにキャリア教育的な要素として浴びせかける必要はなく、教職員がたくさんある内容から精選して、「ここだ」という場面を捉える。教職員それぞれが自分の担当や得意分野や領域をいかして、児童生徒に語りかけていくことが重要である。

## ● 今後の計画・実践・評価

前述の周知・啓発活動及び意識改革と実践とともに行わなければならないことは、実際に「ふるさと・キャリア教育」の計画・実践・評価のサイクルを回すことである。その際に、留意すべき点として、小・中・高等学校がこの「ふるさと・キャリア教育」活動を自校の教育活動としてきちんと位置づけ、主体的に計画・実践・評価を行うことである。(浜田教育センター共同研究：「RPDCAですすめる!キャリア教育」リーフレットを参考にされたい)

平成27年度に実施したアンケート調査等の結果からは、この3年間で実践してきた異年齢者同士の交流活動や教職員や保護者以外の大人との出会いなどが児童生徒の「自己肯定感の育成」「学習意欲の向上」「学習習慣の確立」に良い影響を与えていることが分かる。特に、児童生徒が校外に目を向けて、「自分の育った江津に、私の学んでいる学校の近く

に、こんなすごい人がいるんだ」「この大人がこんなに精力を傾げるだけの価値がある私のふるさと江津」という再発見することが、ふるさとへの愛着や誇りにつながる。ふるさとへの誇りは自分が育ったプロセスへの誇りであり、自己肯定感の醸成の基盤の一つである。「私も将来、こうして江津に貢献したい」という“芽”をもって江津を離れるか、そのような“芽”をもたずに江津を離れるかの差は極めて大きい。その芽が自らの成長を促し、どこでどんな花を咲かせるかは、「ふるさと・キャリア教育」に因るところが大きい。

したがって、市内各小・中・高等学校が、これまで江津市で取り組まれてきた次の活動を自ら主体的に選択して年間行事計画に位置づけ、計画、実践、評価することが重要である。

### ● わくわくイングリッシュ

(江津高校生と小・中学生)

### ● 小学生ものづくり教室

(江津工業高校生と小学生)

### ● 地域企業を招いてのワールドカフェ

(地域の事業主から小グループで生徒が直接説明を受け質問できる)

### ● 「ようこそ、先輩!」講演会

(中学生に20歳前後の卒業生が講演)

### ● 地域と自分の未来をデザイン! 中高生夏合宿

(中高生が地域事業主と江津市の良さや課題と向き合う宿泊学習)

### ● 赤ちゃん登校日

(小5生が赤ちゃん・保護者と複数回交流)

### ● 通学合宿

(小4生が地域ボランティアと共に3泊4日宿泊体験)

今後は、江津市教育委員会が中心となって、江津市教育の一つの特長である「江津市ふるさと・キャリア教育」を協力で推進する。引き続き周知・啓発活動を継続しつつ、学校教育関係者以外の地域の大人も巻き込みながら、市内の全ての学校の主体的な取組に期待する。

## 7. 連絡会メンバーの声

島根県立江津高等学校長 ● 角 英樹



3年にわたるこの事業は、「ふるさと教育」と「キャリア教育」を組み合わせ、地域一体でキャリア教育モデルを作り上げるといふ、地域創生の斬新で創造的な事業になりました。特に、小・中・高の縦の連携と官・民・学の横の連携を織り上げた稀有で多様な素晴らしい活動ができたこと、そして、多領域の様々な方々との絆ができたことに心から感謝し、さらに地域・社会を幸せにする実践を重ねていく決意をしております。

江津市立江津中学校長 ● 濱岡 繁人



持続可能な社会の実現、加えて、成熟社会に適合した新鮮で新たな社会モデルを構築していく基盤となるものが、まさにこの3年、江津市で創造し取組んだキャリア教育の実践であるように思う。これまで取組んできた内容を整理し、新たにこれからの道筋を明らかにしたことは大きな財産である。そして、今始まろうとしている江津型「ふるさと・キャリア教育」こそ、知識を基盤とした自主、協働、創造モデルとしての生涯学習社会の実現に向けた、未来への扉を開く、教育のチャレンジであろう。

江津市立江東中学校長 ● 太田 真治



「めざす」ワーキングチームに2年間所属するなかで特に感じたことは、地域の方々の、江津の未来とともにそれを切り拓いていく江津の子らへの熱い気持ちでした。夢を抱き目標を設定し、実現に向け努力する子どもたちのために、私たちは「江津市ふるさと・キャリア教育フローチャート」を意識しながら、築きあげた縦横の繋がりを大切に、ときに振り返りながら、全力で取り組んでいかなくてはと思います。

江津市立青陵中学校長 ● 山藤 俊治



本事業推進に当たり多くの皆様方に温かいご支援、ご協力を頂きました。誠にありがとうございました。さて、来年度からはこの3年間で得られた成果を元に、新たな挑戦を続けていかなければなりません。江津市版「ふるさと・キャリア教育」の再構築であります。そのためには、児童生徒の発達段階を踏まえた系統的・計画的な指導計画の策定が必須と考えます。私個人としては、「江津に帰りふるさとに貢献する人づくり」をめざします。

江津市立桜江中学校長 ● 河野 啓之



ふるさと・キャリア教育推進の成果は、地域のNPO及び企業関係者とネットワークができたこと、地域の方の思いに触れることができたこと。そして、継続して取り組んだことで、ねらいが明確になり、生徒に思いが伝わりやすくなったこと。3年生の感想を読むと、1年の頃は県外で働くという意見が全てであった。3年になると、「地元に戻り地域貢献もいいな」という意見が増えたことが、その証と考える。

江津市立江津東小学校長 ● 嘉戸 哲治



平成25年度と平成27年度の2年間関わりました。初年度は、モデル事業のテーマについて話し合い、「ありがとう江津～ふるさとを幸せにする人づくり～」を作成しました。3年目は、「めざす」ワーキングチームの一員となり、アンケート調査やフローチャート図の作成に協力しました。キャリア教育フォーラムでの3年間の成果発表は、充実感があふれ今後のふるさと・キャリア教育の方向性が明確になった素晴らしいものでした。

江津市立跡市小学校長 ● 佐田尾志おり



本校は、江津工業生と行う「ものづくり」の学習に全校で取り組みました。心配していた低学年にとっても、魅力的だったようです。工業高校の3科の見学では、口をあんぐり開けた姿が、実習では真剣な眼差しが、とても印象的でした。この学習で、ものづくりの面白さや、地元の高校の魅力を感じ、さらには、伝えてくれた高校生の姿から、憧れや夢を描いた児童もいました。児童の夢を育むためにも、今後もこの事業の継続を望みます。

江津市立川波小学校長 ● 山縣 雄二



昨年12月、敬川町の高齢者の方々の集まりに招かれたとき、江津市が取り組んでいる「ふるさと・キャリア教育」について話をさせていただきました。会に参加された方々は、少子化や学力の問題等、江津市や今の子ども達が直面している課題をよく知っておられました。話が終わると、一斉に大きな拍手をしていただきましたが、今後もしっかり頑張っていってほしいという、強い思い、願いが伝わってきました。

江津市立高角小学校長 ● 岡田 和明



今年度から連絡会の構成員として参加させていただきました。活動に直接加わることはありませんでしたが、高校生が中学生や小学校と関わる中で見せた自信に満ちた姿と、それを見つめる小中学生の真剣なまなざしが印象的でした。これからも、児童生徒を中心に、さまざまな立場の人間が、ふるさと江津への思いを語り、それを伝え合う機会を大切にしていきたいと思いました。

浜田教育事務所企画幹(社会教育) ● 佐々木 伸



「ありがとう江津」。このスローガンのもと、学校間・異校種間の連携、地域ぐるみで子どもの育ちを支えるキャリア教育が計画的に進められて、大きな成果を上げられました。江津にある豊かな教育資源、「ひと・もの・こと」をさらに生かしたキャリア教育が多様な形で展開され、自分の未来を見据える子ども、ふるさと江津を担う人、江津を大切にしながら大きく羽ばたく人が育つことを期待しています。

江津商工会議所青年部 ● 益子原 健



江津商工会議所青年部の一員として参加させていただきました。これからも地域住民はもちろん、もっと商工会議所などの組織が受け皿となり、地元企業が一体となって推進していかなければ、と感じました。そして、子どもたちに憧れてもらえるような江津の大人になり続けることが大切だと思います。“子(江津の子どもたち)は親(江津の大人たち)の背中を見て育つ”。この事業に関わらせてもらい、子どもたちの未来のために、責任をもった行動で貢献していこうと強く思いました。

NPO法人てごねっと石見 ● 渡辺 諭



キャリア教育の意味を本当に理解している人はどのくらいいるのでしょうか？ほとんどの人が「なんちゃってキャリア教育」を語っているかもしれません。私自身も同じです。事務局で関わっているながら、まだまだこれから。ただ、ひとつだけ実感したことがあります。それはキャリア教育の本質は「子どもたちの中にある」ということ。これからも積極的に子どもたちとふれ合い「なんちゃってキャリア教育」から卒業しようと思います。皆さんも一緒に卒業を目指しましょう。

江津工業高等学校PTA副会長 ● 藤田 紀子



私自身が高校生と中学生の子育て真っ最中であり、キャリア教育の活動に参加させてもらうということで、更に江津市を知る素晴らしい機会をいただいたことに感謝しております。子どもたちが江津市の「ひと・もの・こと」について体験し、実感し、共感し、そして「ありがとう江津」と思えるように、親として地域の大人として今後も見守っていきたいと思います。

江津市立郷田公民館館長 ● 村川 立美



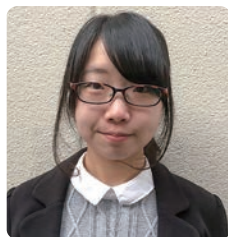
私たちが子どもの時代は、日頃の生活の中で、地域の人々の暮らしを身近に感じ、大人が働く姿を直接見たりすることができ、できる環境にあっただけで、地域で働く大人への憧れや厳しさを体感することができました。しかし、現代の子ども達は、IT社会の中で育ち、情報や流行などは目や耳で感じ、知ることができますが、自分で行動する実体験や生活体験の機会は少ないようです。地域での子育てや地域の方々とふれあいなど、多くの大人達との様々な体験をした子どもたちは、自分で考え、行動する力を身につけます。学校での学習が社会につながり、自ら生きる力を見出すことができるように、地域ぐるみで「キャリア教育」のねらいを共有していきたいと思っています。

江津商工会議所青年部 ● 佐々木 孝久



キャリア教育は、誰のためにあるのか。私は、その全てが子ども達のためにあると思っています。子ども達が、自らの可能性を信じ、自己の想いや目標を実現できる、自立した人間になれるように、私たちが支えることだと思います。自立し自己実現を進める中で、人や地域と関わり、「感謝」という心が培われると思います。都会に出る子を祝福し、帰ってくる子を祝福する。それが私たちのキャリア教育への姿勢をスローガンにした「ありがとう江津」です。江津のキャリア教育は、田舎だからこそできる、心のあるキャリア教育だと私は想います。

NPO法人てごねっと石見 ● 竹内 希



江津市の教育は、各学校と教育委員会、そして地域の方々の協力を得て、より良い学びの場を実現する土台ができました。今後はその土台を、より江津市に根付き、地元の人と接する機会が増えるような『江津市ふるさと・キャリア教育』を実践していきたいと考えています。そのためには、江津市に住んでいる皆さんのご協力が不可欠です。より多くの皆様に、ご理解、ご協力いただけるよう、事務局として今後とも励んでいきます。



## ありがとう江津 Thank Gotsu!



「地域でつなぐキャリア教育モデル事業」(島根県教育委員会)

## 江津地区キャリア教育ガイド

平成 28 年 3 月

発行：江津地区連携推進連絡会

連絡先：〒695-8501 島根県江津市江津町1525 江津市教育委員会

デザイン：株式会社 D52